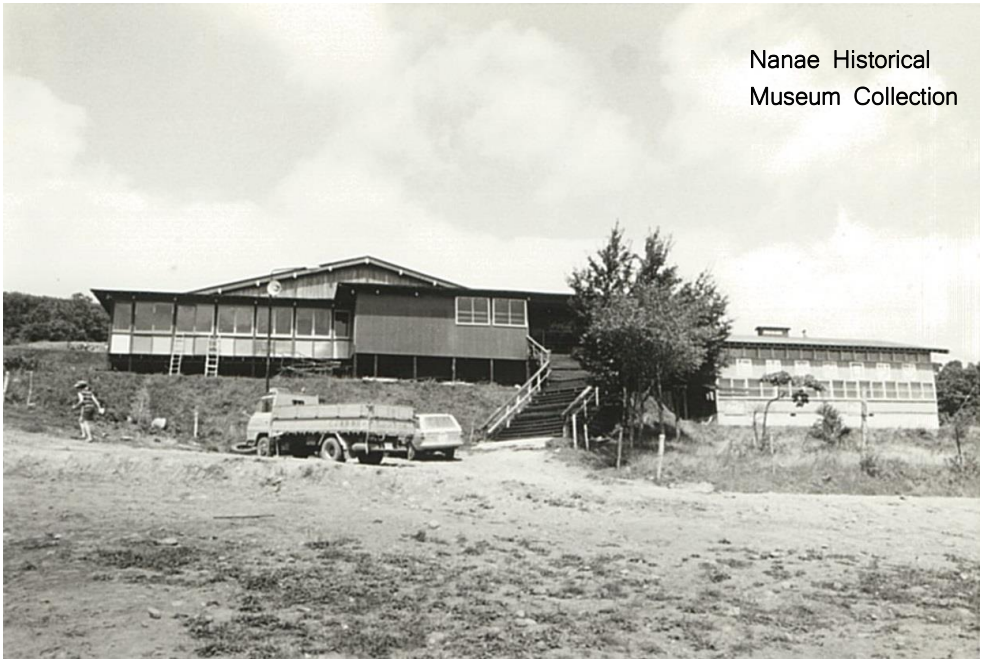
Pichari ～ピチャリ～
七飯町歴史館だより
第226号



ななえ古写真物語

VOL.226

子山から仁山

仁山はいつから？
昭和40年代
仁山地区

上の写真は、『七飯町史』1092ページに「仁山高原」と記載されているものだ。なぜ建物名が記載されておらず、「仁山高原」という漠然とした範囲の表記となっているかは謎だが、私の記憶ではスキー場に関係するロッジだったと思う。

昭和40年代から平成にかけての仁山高原スキー場は、今よりも賑わっていた。仁山駅で下車してすぐのところに、スキー場があったので、汽車でも行けるし自家用車でも行けた。また、ジャンプ競技用の施設もあったことは、過去に発行しているピチャリ第61号でも紹介している。もしかしたら、私がロッジだったと思っていた建物が、記憶よりも大きいのは、宿泊施設を兼ねていたのかもしれない。

一面銀世界の写真ではなく、木々が葉に覆われていたり、麦わら帽子に半ズボン姿の人物が写っていたりすることから、夏場のオフシーズンに撮影されたと推測できる。いずれにせよ、仁山がレジャーの場として、人々に親しまれていた頃の写真であることは間違いない。

ところで、長らく調べていても解明できずにいる歴史は多い。「仁山」という地名もその一つで、その語源すらわかっていない。現在の人々は当たり前のように「仁山」という漢字を使うのだろうが、過去の文献を調べていくと、そうではない事がわかっている。

例えば、当館で所蔵の七飯町指定文化財「峠下村絵図」を見ると、仁山に相当する場所に記載されているのは「字子山」。「に」ではなく「ね」であり、十二支の鼠に相当する漢字である。また、同じく安政年間に編纂されたといわれる、市川十郎が記した『蝦夷実地検考録』の峠下村の項には、「貉（ムジナ）沢より根山（仁山）へ４町、根山より汲根別村（久根別）４町余り…」と記されているし、同じころに旅した松浦武四郎の著作で有名な『蝦夷日誌』にも、「子山」と表記されていることから、江戸時代、仁山は「ねやま」という音で呼ばれており、それに相当する「子」または「根」の漢字が使われていたことが伺える。

明治、大正期の記録が乏しいので、判然としないが、昭和3年に施行された七飯町の字名改正の一覧表をみると、仁山地区の字名として「二山」「荷山澤」「荷山岱」とあり、いつの間にか「ね」から「に」へと音の変化があったと推測されるのだが、何故なのか？という問いに答える史料は見つかっていない。

いずれにせよ、本来「子山」だったのなら、その語源は何なのか。例えば鼠が多いからとか、方位的に子（北）にあるから、といった理由が想像されるが、何処を基準として真北なのかなど、説明が足りていない。仁山の地名由来の謎解きには、まだまだ時間がかかりそうだ。

日進月報

<2026. 9>

3日　夜の博物館最終夜

函館植物研究会会長の宗像英明氏をお迎えし「北海道、江戸から明治の植物誌」についての講座でした。内容は、箱館開港時のペリー艦隊の来航の目的が、日本の植物採集もあったことにふれ、採集した200種以上の植物のうち、5種がその後の世界の基準標本になっていることを教えていただきました。人物で興味深かったのは、ロシアの植物学者マキシモヴッチと調査に同行した日本人、須川長之助の出会い。宗像氏の多岐にわたるお話は、歴史のなかの点と点がつながり、新たな関心へと向かいます。後期講座は12月から行います。新たな受講者をお待ちしております





17日　歴史館の資料、東京へ

東京都新宿にある「ふれる博物館」。視覚障がいのある方が椅子に座って、展示作品を「触って」鑑賞することができる博物館です。次展示のテーマが「北海道」ということで、関連する資料の貸出のお願いがあり、シマエナガ、エゾモモンガの剥製、アイヌ文様の衣装、ミヤマクワガタの標本の四点がふれる博物館へ出張しています。どんな資料が「北海道らしい」のか迷いに迷い、決めた四点。たくさんに手に触れて、その帰りを待っています。





26日　ジュニア探検クラブ

今年も、ジュニア探検クラブで駒ヶ岳登山に挑戦してきました。天気は良好、気温も暑くないという絶好の登山日和。少し気になるのはヒグマの動向でしたが、登山口駐車場には、多くの車が停まっていたので、子どもたちも少し安心した顔を取り戻し、登山開始。植物を観察したり、ニホンカナヘビを見つけたりしながら、急な斜面を一歩ずつ登っては休み、そしてまた登るを繰り返して10合目の馬の背へ到着。大きなケガもなく無事に下山できました。





11月の予定

1	日	テーマ展最終日
2	月	休館日
3	火	文化の日
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	休館日
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	ジュニア探検クラブ
15	日	
16	月	休館日
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	勤労感謝の日
24	火	休館日
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	休館日

※休館日：2日,9日,16日,24日,30日

千歯（せんば）

稲や麦などの脱穀に用いる道具。太い四角の台木に尖った長い歯が並ぶ。20本ほどの歯の幅は1㎝で、間に穂先を通して引き抜き脱粒する。大正からは足踏式が普及しました。



編集後記　～tawagoto～

この夏、青森県の三沢市を訪れた。目的は寺山修司記念館の再訪だ。寺山に興味を抱いたのは、誕生日が同じだと知った十代のころ。貪るように著作を読み、アングラな世界に憧れた。記念館の展示には、随所に工夫が施され、ファンなら存分に楽しめる。机の引き出しを開け、ライトを照らして展示物を見るという仕掛けも面白い。この時季に思い出す寺山の句がある。「かくれんぼ　三つ数えて　冬となる」。芸術の秋はあっという間に過ぎていく。

Pichari ～ピチャリ～

第226号

令和8年（2026年）10月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193　亀田郡七飯町本町６丁目１－３

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail：rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp